

カンガルーケア

カンガルーケアとは、名前の通り胸の上で肌と肌とが直接触れ合うようにしながら赤ちゃんを包み込むように抱っこすることです。このような方法は南米のコロンビアにあるサンジュアン・デ・ディオス病院の二人の小児科医によって始められました。当時、その病院では小さく生まれた赤ちゃんたちが保育器不足で一つの保育器を2～3人の赤ちゃんで使用したため、感染の頻度が高くなり、死亡してしまうことが少なくありませんでした。そこで考えられたのが、お母さんがその保育器の代わりに胸の上で抱っこをして保温するという方法です。現在では、保温だけでなく、様々な効果があるとされ、広く一般的に行われるようになりました。



カンガルーケアの効果

- ・赤ちゃんの呼吸が規則的になり安定する。
- ・無呼吸（早く生まれてきた赤ちゃんの場合、呼吸を時々忘れて休んでしまうこと）が減少する。
- ・赤ちゃんの眠りが深くなり、起きているときも穏やかになる。
- ・赤ちゃんとお母さんの肌が触れ合うことで、体温が保たれる。感染症の危険が少なくなる。
- ・過剰なエネルギーや酸素の消費量が減ることで体重の増加が期待できる。
- ・お互いのことがよくわかり合える（親子の絆を深める）

当院 NICU では、赤ちゃんの集中治療が終わり、状態が安定してきたころにカンガルーケアをご両親に勧め、ご希望があれば行うようにしています。カンガルーケアの時間は最低30分以上とし上限はとくにありません。体重制限はなく、赤ちゃんの状態によっては早くから行うことができます。カンガルーケア中に赤ちゃんがおっぱいを探すこともあり、おっぱいを吸ってもらうこともあります。また、面会時間を制限していないため、お父さんがカンガルーケアをされることも多くなってきています。



治療を頑張ってきた子ども達がパパやママの温もりの中で安心して眠っている姿や、優しいまなざしで子どもを見つめるご両親に接していると改めて親子の絆の強さを感じます。